



# 令和5年 新年のあいさつ



三戸町長  
松尾 和彦

## 「三戸町の更なる

## 飛躍を目指して」

新年あけましておめでとうございます。  
令和5年の年頭にあたり新年のごあいさつを申し上げます。旧年中は、町政の運営に深いご理解とご協力を賜りましたことを、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年を過ごした年でありました。日夜、最前線での対応をお願いする医療関係者の皆さまや、各福祉施設関係者の皆さまに心から敬意を表するとともに、町民の皆さまにおかれましても、日常生活で緊張を強いられるなか、冷静な行動と感染拡大を防ぐ取組を継続されており、ことに感謝いたします。

町では、このようなコロナ禍であっても町経済の維持および活性化を図るため、さんのへ応援商品券やプレミアム付き商品券を発行したほか、商工業パワーアップ事業などを通じ商工業に携わる皆さまへの支援を行いました。さらには、燃料価格高騰などの対策としてエネルギー価格等高騰対策事業者支援金や燃料価格高騰対策事業用車両支援金により措置を講ずることとしております。ことしにおきましても、町経済の活性化につながる施策への取組を進めてまいります。

三戸南部家の居城であった三戸城跡が3月15日国史跡指定を受けました。指定にあたって、これまでご尽力を頂いた関係各位の皆さまに對しまして、心からの感謝と御礼を申し上げます。町では、春まつりや記念イベント、スタンプラリー、記念講演会など、さまざまなイベントを通じて祝賀するとともに、町内また町外への情報発信をいたしました。改めて城跡の価値・魅力を再認識し町の宝として、次の世代へ伝えていきたいと考えております。

昨年7月中旬から8月上旬にかけての大雨により、農地や道路への被害が発生いたしました。当町の特産品である三戸りんごをはじめとする果樹、水稲、葉タバコは大雨や高温などの影響が見られましたが、生産農家の皆さまのたゆまぬ努力により豊かな実りを得ることができました。町は、早期の復旧支援に取り組み、基幹産業である農業の経営基盤の強化へ取り組んでまいります。

コロナ禍により開催中止となっていたさんのへ秋まつりは、町が山車製作費用を助成し3年ぶりに運行することができ、併せて、国史跡指定

記念行事として、町議会議員の皆さまによる特行列を復活させるなど、町民の皆さまへ元氣そして活氣を与えることができたと考えております。今後も伝統のある祭りを途絶えることなく伝えてまいります。

平成25年に開校した小中一貫三戸学園が10年目を迎え、12月には10周年記念式典が挙行され、子どもたちの素晴らしい合唱を拝聴し感動いたしました。健やかに、また、心豊かに成長している姿から、未来への希望の光を垣間見ることができました。新年度からは、各学校の評議員制度により行っていた運営を、コミュニティ・スクールといった一定の権限と責任を持つ協議会制度へ移行し、より地域と協働した学校運営となるよう取り組んでまいります。

県立三戸高等学校については、郡内唯一の普通科高校として当地域の教育の一端を担っております。町では、資格取得費用の助成や通学費用の助成などを行い、三戸高校とともに高校魅力化へ取り組んでまいりました。昨年は、入学希望される方を増やすため、生徒の全国募集を行い都市部へのPR活動を行いました。新年度からは、町学校給食の提供を行うなど保護者の負担軽減を図っていくほか、地域おこし協力隊などの外部人材の登用により、外部目線での魅力向上や地域と高校の結びつきを深めるなど、関係する皆さまと連携し魅力向上に努めていきたいと考えております。

まちづくりの一貫として、平成30年で途絶えていたホップ生産について、ホップ生産復活のミッションに携わる地域おこし協力隊員が試験栽培を行い、試行錯誤しながら昨秋ホップを収穫することができました。今後、別のミッションとなる三戸高校魅力化へ取り組む協力隊とともに、地域資源、町の宝を活かし地域課題の解決に向けて一緒に取り組んでまいります。

本年も引き続き、新型コロナウイルス感染症対策へ迅速に対応しながら、医療・福祉、子育て支援の充実、まちの賑わい創出、町経済の活性化、誰もが健康で安心して暮らし続けられるまちの実現に全力で取り組んでまいります。

結びに、令和5年の干支は「卯」であります。卯のように前へジャンプし大きな飛躍する意味も込められているともいわれております。町民の皆さまと町にとっても、ともに大きく飛躍し、私たちの生活も向上する素晴らしい年となりますようご祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。